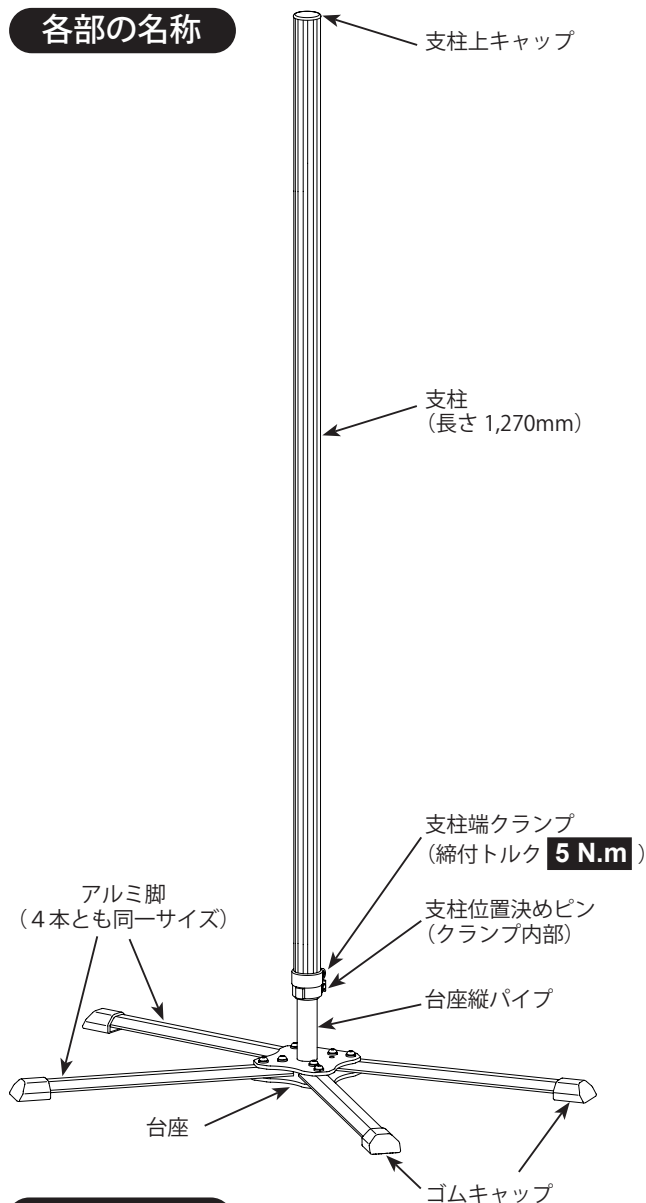


このたびはホビータワー自立式支柱 HS-1000『ホビースタンド』をお買い求めくださりまして、まことにありがとうございます。

このホビースタンドは、部屋の中のみならず屋外など好きな場所で気軽に使用できるよう自立式としたベース支柱で、これにさまざまなオプションのアタッチメントを組み合わせることによっていろいろな目的に合わせた展示スタンドとしてお使いいただけるようになります。

本商品は支柱のみです。アタッチメントはすべて別売です。ご使用になる前にこの説明書を最後までしっかりとお読みになり、各注意事項を十分にご理解いただいた上で、正しく安全にお使いください。

### 各部の名称



### 保証期間

本商品の保証期間は、お買い上げ日より**1年間**です。

詳しくは添付の「品質保証カード」をご参照ください。

### 問い合わせ先

株式会社 箕浦 **MINOURA**

〒503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

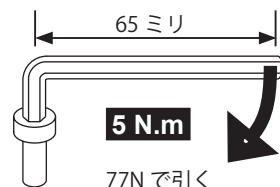
Phone: (0584) 27-3131 / Mail: minoura@minoura.jp 【営業】 infodesk@minoura.jp 【カスタマーサービス】

### 必ず注意していただきたいこと

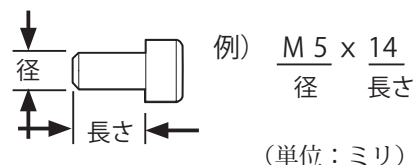
- 本商品は自立式のスタンドのみです。アタッチメントはすべて別売です。必要に応じて別途お求めいただき、支柱に装着してご使用ください。
- 屋内用とはなりますが、床から天井までの高さが2.0～3.0mの範囲内で突張り式ポールとして簡便に設置できる「HT-1000」もあります。
- 4本の脚は、スタンド全体を壁際に寄せて使うための「K字型」と、部屋の中央に設置しどの方向にもアタッチメントを取り付けられる安定重視の「X字型」の2パターンに組むことができます。  
K字型で、背面にアタッチメントを取り付け重いものを装着すると、バランスを崩して転倒してしまう恐れがあります。ご注意ください。
- 支柱の高さは、台座縦パイプにあるピンの位置で固定されています。伸ばして使うことはできません。
- 2本のホビースタンドをペアにして2本の支柱間に渡して棚板などを装備する際は、重量バランスに気を付け後方に転倒させないように配慮してください。  
支柱1本あたりの耐荷重制限は、支柱部分での鉛直線方向荷重で30kgまでです。それ以上重いものを搭載しないでください。  
また支柱から離れた偏った荷重での搭載はこれよりも少ない荷重でも不安定になりますから、荷重はできるだけ支柱に近づけた状態でお使いください。
- 支柱は床に固定されているわけではありません。それにより展示している品物が落下しても弊社ではその責任を負いかねますので、その前提で飾り付けを行なってください。
- アルミ脚には高さ調整用のアジャスタなどは装備されていません。ホビースタンドは必ず平坦で水平な床面の上でお使いください。傾斜していると支柱そのものが傾きバランスを悪化させることになります。  
設置中にもし支柱が傾いていたとしたら、台座部分が破損している恐れがあります。その際は使用を中止し、すべてのものを下ろしたうえで販売店にまでご連絡ください。
- ゴムキャップの材質は十分に吟味してありますが、床の材質や表面コートの種類によってはキャップの跡を付けてしまうことがあります。賃貸住宅など汚損が許されない場合は、シートなどを敷いてお使いいただくか、ゴムキャップの裏側にテープなどを貼ってお使いください。
- ボルトの指定締付トルクは、M5ボルトが**5N.m**、M6ボルトが**8N.m**です。これより弱いと十分に締め付けられていないために緩んでくれるおそれがあり、強すぎると部品の破損が危惧されます。
- 本商品は品質向上のため予告なく仕様変更することがあります。商品に関する情報は随時弊社ウェブサイトで公開しています。適宜参照するようにしてください。

### ボルト締め付け推奨トルクの目安

付属の六角レンチの長さは65ミリなので、5N.mの締め付けトルクとは、レンチ先端を77N(約7.9kgf)の力で引く程度になります。

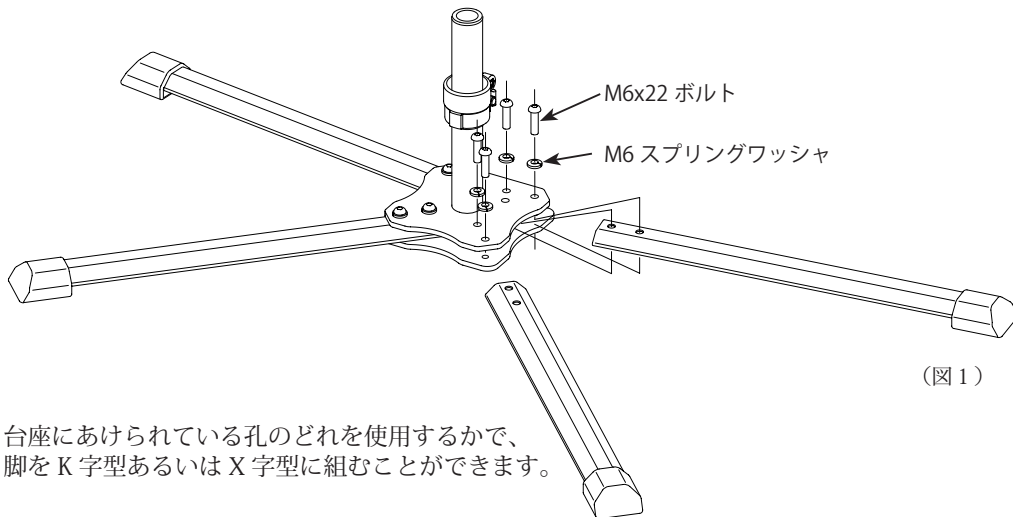


### ボルトサイズの読み方



## 1 脚を台座に組み付けます。

台座の2枚の板金具（外れません）の間に脚を差し込み、上側の板金具の上から M6 スプリングワッシャを通して M6x22 ボルトを通してアルミ脚の孔を貫通させ、下側金具のねじ孔に **8 N.m** でねじ込みます。（図1）  
アルミ脚 1 本あたりボルト 2 本で固定します。  
ボルトは一気に締め込まず 8 本全体を**均等**に締めるようにしてください。

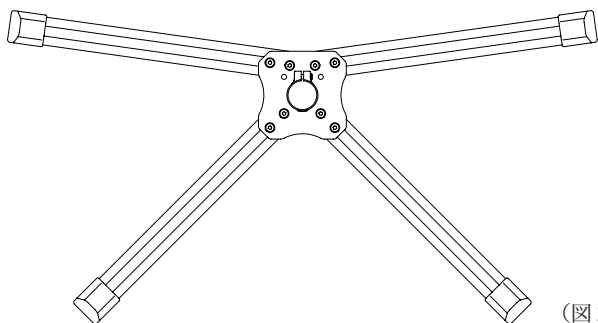


(図1)

台座にあげられている孔のどれを使用するかで、脚を K 字型あるいは X 字型に組むことができます。

### 脚を K 字型に組む

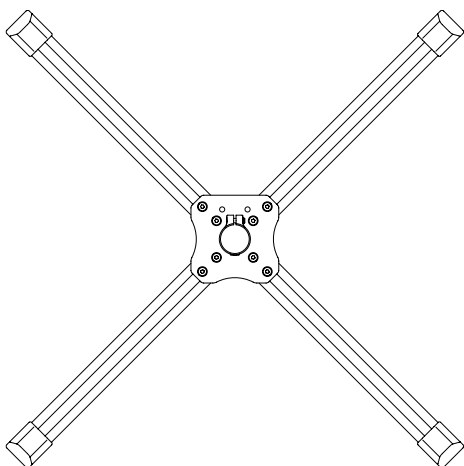
ホビースタンドを壁に寄せて設置することができるようになります。必ず背後に壁が来る位置に設置してください。この状態は背面方向に転倒しやすくなるため、荷重は手前側に寄せなければいけません。



(図2)

### 脚を X 字型に組む

どの方向の荷重にも耐えられるようになるため、部屋の中央などに置くことができます。支柱の手前面と背面の両方を同時に使った使用もできます。



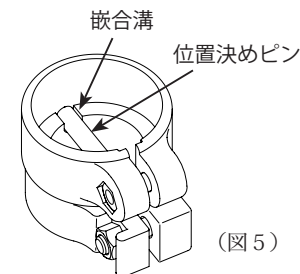
(図3)

## 2 台座に支柱を組み付けます。

まず支柱端クランプのボルトの上側だけを緩めます。

緩めすぎるとナットが落ちたりしますので注意してください。

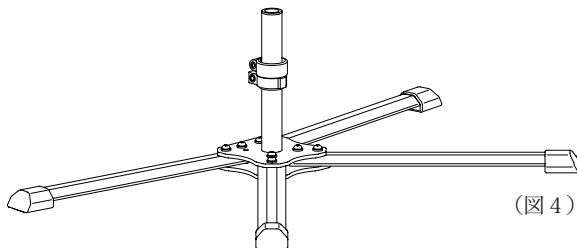
このときもしクランプが下がって外れてしまったら、台座縦パイプに横から挿してある位置決めピンがクランプの嵌合溝にきちんと入るように位置を合わせ直し、下側のボルトを締めて位置を固定してください。（図5）



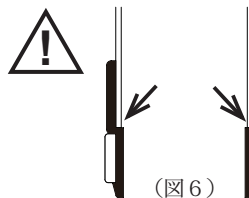
(図5)

支柱をクランプの奥いっばいに差し込み（図6）ボルトを2本とも **5 N.m** でしっかりと締め付けます。

このとき支柱の向きも微調整してください。（図7）

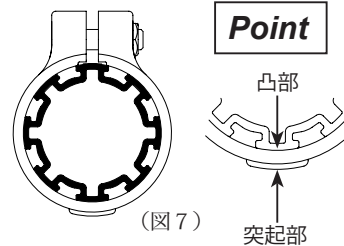


(図4)



(図6)

中支柱はクランプの樹脂スリーブの奥いっばいに突き当たるまで挿入します。浮いたままだと、設置後に不意に隙間が埋まるように下がってきて、不安定になってしまう恐れがあります。



(図7)

支柱端クランプの突起部と支柱のアタッチメント装着溝の凸面とを位置合わせておくと、アタッチメントを正しく真正面に向けたり、左右対称の角度に装着できるようになります。（図7）